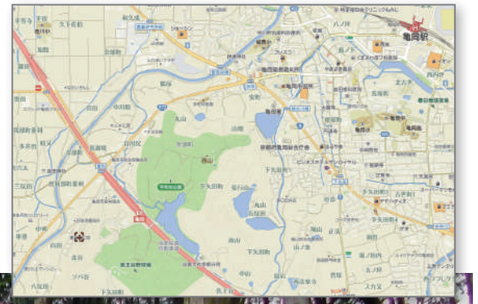
地域・コミュニティ活動助成

重利の山を守る会

京都府亀岡市

住宅地に隣接した手入れの行き届かない里山を安全な里山へと守り育てる地元住民によるモデル活動



山で作業する会員

団体設立経緯

京都市の近郊に位置する亀岡市は京都・大阪への通勤圏内にあり、昭和40年代後半に山を削り住宅地として開発され団塊の世代向けに販売されました。販売された宅地は山の裾まで開発してあり、当時植林されていたスギやヒノキもまだ小さく、山の景観としては美しいものでした。その後45年が経過し、国産木材の価格低下でスギの間伐、枝打ちなど、まったくされない状態で細いスギのツルが絡み、鬱蒼たる林になってきました。

「**重利の山を守る会**」は、住宅近隣の住民が倒木、土砂崩れから自分たちの安全を守るため、自ら下草を刈り山に光が入るよう間伐。落葉樹を植え昔の里山に戻すことで、山を美しく保ち、地域住民が快適かつ心地よい環境を取り戻し、安全に過ごせるようにとの思いで設立しました。

活動概要と活動対象範囲

月に1回の活動日を設け、下草刈りや間伐をしています。間伐材を有効利用するため、小屋を建て活動の拠点にしました。

その後間伐の範囲を広げ、ピザの焼ける小屋を建て、薪を作りピザを焼いています。また、山の上の方にツリーハウスを建設し、ボルダリング、丸太の登り棒、ハシゴなどを設置し子供たちが遊べるようにしています。山の木の廃材は木工教室の材料として利用し、良質な木材はテーブル、ベンチなど家具を制作。ヒノキやカエデで器を制作し、亀岡市の「ふるさと納税」の返礼品に利用してもらっています。

（**下の写真**）チェンソーを操り伐採に当たる
（**右の写真**）山の上のツリーハウス。ボルダリングや登り棒などが子供たちに人気

2019年4月、渋谷菜津子さんによるチェンソーアートのパフォーマンス。5台のチェンソーを自在に操り、作品（**右の写真**）を仕上げた

活動に至った理由や背景

スギ、ヒノキの人工林で手入れが行き届かなくなり放置されている山が、全国で見られます。景観上の問題だけでなく、密集したスギの木がうまく育たず根の張りが弱くなり、土砂崩れによる災害の発生源にもなっています。

私たちが住んでいる住宅地も、台風が通過するたびに道路に倒木が散乱して通行止めになり、いつ住宅に倒れてくるかわからない状態でした。行政に何度も宅地の安全のための伐採ををお願いしましたが、個人所有の山では地主に依頼するのみです。私たちは、「自分たちの安全は、自分たちで守る」つもりで地主に了解を取り付け、間伐を始めました。

活動内容と成果

⑴ 下草刈り、間伐の成果

月1回の下草刈り、間伐で山裾の住宅に掛かる危険な木を伐採。倒木の危険が去り、地域住民も安心して暮らせるようになってきました。

そもそも山の木の伐採は、とても危険な作業です。経験のない私たちには、難しいことでした。それでも下草を刈り続けました。2カ月ほどすると、下草が枯れてきて見通しが良くなってきました。鬱蒼とした山が少し明るくなってくると、皆勇気が湧いてきます。その頃から住民の意識が変わり、地域の女性や学生など、多人数が作業に参加するようになりました。

山に入る道を入り口から整備し、手前のスギから1本ずつ倒していきました。山の整備とチェンソーの扱いを勉強するため、皆で講習を受けに行きました。

5年が過ぎ山の間伐が進み、美しい里山に変わりつつあります。山を守る会の会員は、山の木の伐採を危険を顧みず作業しており、共同作業で信頼と絆がとても強くなり地域の連帯感が生まれ、美しい里山を誇りに安心して過ごせる様になってきました。

⑵ 山を守る会のイベント

重利の山を守る会は「**SYK重利夢工房**」の名で、季節に応じて各種のイベントを開催しています。

●チェンソーアートパフォーマンス

重利の山を守る会の活動内容を多くの人に知ってもらうため、私たちが間伐したスギの木で作品を創ってもらいました。チェンソーアート・パフォーマーの**渋谷菜津子さん**は、京都府南丹市に在住の女性で、世界大会に参加する実力の持ち主です。地域の様々なイベントで技術を披露しています。その作品は女性ら

1. 2. 7月21日、3回目となる「親と子の木工教室」を開催。昼にはピザ窯で焼き立てのピザを振る舞う
3. 9月1日実施の「夜間防災訓練」。ポリ袋に入れた米、野菜、ルーなどを湯煎して作るカレーは、災害時に貴重な水を節約できるレシピ
4. 5. 10月27日に開催した「森のコンサート」。晴天の下、近隣エリアで活動する2組のアーティストを迎えた

しい可愛らしい動物が多く、作品を見るたび心が癒されます。

当日は流れるような手順で、フクロウのベンチを1時間ほどで仕上げてしまいました。創作中はチェンソーの爆音がまるで美しいメロディーを奏でているような、心地よいひと時でした。その後、観客との質疑応答、講習に移り、チェンソーアートの作品創りの手順、技術など詳しく教えてもらいました。会員、観客にとって、とても参考になる1日でした。

●オープンガーデンかめおか

亀岡市は「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想」を掲げ、ウェルカムガーデンやスポットガーデンを設置し、訪れる人をもてなす美しいまちづくりを進めています。また市民協働で、花づくりを通じたコミュニティの形成を促進しています。

その一環として毎年5月バラの咲く頃、「**オープンガーデンかめおか**」が開催されます。私たちSYK重利夢工房も登録・参加し、市内外から訪れる多くの人に重利の山を公開、私たちの活動の一端を見てもらいます。2019年は5月18日と19日の2日間にわたり開催し、ピザ小屋ではカフェ、お子さん連れの人はツリーハウスまで足を延ばし、ボルダリングや丸太の上り棒にチャレンジ。疲れたらハウスの中のハンモックで一休みと、満喫していました。

山を散策に来る人は自然に興味がある人が多く、木漏れ日の中、野鳥のさえずりを聴き、間伐された森にそよぐ風に浸り、感動して一緒に活動したいとの申し出が来るようになってきました。

●親と子の木工教室

毎年学校が夏休みの期間中、小学生を対象に、山で伐採した木を素材にした木工教室を開催しています。子供だけでなく親御さんと一緒に参加してもらいます。オモチャや巣箱からはじまり、インテリア雑貨やキッチン小物、ベンチなどにチャレンジする親子も出てきました。

お昼には間伐した薪を燃やし、ピザ焼き体験をしてもらっています。年々参加者が増え、ボランティア活動でお手伝いしてくれる学生さんも増えてきました。

●夜間防災訓練

毎年9月1日の「防災の日」に、ピザ小屋で実施。夜間に発電機で灯りをつけ、スマホの充電の確認をしています。また、非常時に温かい食事ができるよう、ロケットストーブでカレー作りをしています。ポリ袋を二重にして米、水を入れ細かく刻んだ野菜、ツナ缶、カレールーも二重の袋で80度くらいのお湯に40分ぐらい浸します。完成後は器に盛らず、袋を広げてそのままいただきます。普通においしく、おかわりする人も出てきます。

小屋には水、非常食と、防災ポンチョ用のポリ袋を備蓄しています。大型の黒いポリ袋で、頭と手が出るように、ハサミで切ります。寒い時には防寒に、また女性の着替えにも外から見えず便利です

●森のコンサート

間伐した山の広場にスペースを取り、間伐材で作った小屋を舞台に、山の斜面に設置したベンチを観客席として、2組のアーティストによるコンサートを10月に開催しました。

女声デュオ「ブリランテ」: 亀岡を中心に活動している、ソプラノの美しい歌声の響くグループです。クラシックのアリアからポピュラー、童謡、唱歌まで、幅広いレパートリーが特徴です。

小濱達郎ファミリーバンド：地球にやさしい自給自足の生活を目指し、大阪から家族6人で南丹市に移住。農業、狩猟、子育てをしているシンガーソングライターです。

どちらのアーティストも、SYK重利夢工房の活動内容をよく理解してもらい、聴衆に合わせた選曲で、秋風の心地よい山のステージでの演奏でした。

ブリランテさんの透き通る歌声と、小濱達郎ファミリーバンドのアットホームなライブで盛り上がりました。聴衆の多くから、「良かった！楽しかった！ また聴かせてほしい!!」との声をいただきました。「ブリランテさんの『ふるさと』を聴き涙が出てきました」と感動していた女性の方。「小濱達郎ファミリーバンドの子供たちが、親と一緒のステージで歌っている様子が余りにも自然でほほえましい！」と感動していた男性。『幸せなら手をたたこう』では童心に帰り、「手を叩き、足を鳴らし、楽しかった!!」と言って、皆さん笑顔いっぱいでした。

森のコンサートも2回を重ね、リピートで来ていただける人たちもいらっしゃいます。そうした方のなかから、お手伝いの申し出もいただくことも増えています。今後も地域と密着し、手作り感を大事にしたSYK重利夢工房として継続していきます。また小濱達郎さんには、SYK重利夢工房の歌をプレゼントしてもらいました。当会のテーマソングとして歌い継いでいくつもりです。早速ホームページに公開しています。

2019年の暮れから4カ月かけ、活動拠点のピザ小屋の近くに新設したウッドデッキ。本助成事業とは別枠だが、（公財）都市緑化機構の「第30回緑の環境プラン大賞」に入選、助成金を獲得して実現した

課題と解決方策

ボランティア活動団体で地元の山の整備を進めてきましたが、私たちの会員も高齢になっています。幸い会員は皆元気で活動を楽しんでいますが、若い人たちの参加を願っています。

近隣に京都先端科学大学のキャンパスがあり、ボランティア活動の一環として学生に参加を呼び掛けています。学生を含む若い人たちが、スギの伐採、ログハウスの建設、山の木を利用した家具づくりといった当会の活動に興味を持ち、積極的に参加してくれるようになってきました。会の維持には、会員と一般参加のボランティア、そして地域住民の理解と協力が不可欠です。

重利の山を守る会では、①『**うれしい！**』**地域の役に立ち**、②『**楽しい！**』**仲間と一緒に活動**、③『**美味しい**』**みんなでピザなどを料理する**、の3つをモットーとして、明確なノルマを持たず、ゆっくり、のんびり、ゆるーく進めていきます。

今後の予定

会が成熟してきていますので、年間のイベントをメインにして進めていきます。春にチェンソーアートの公演、オープンガーデンかめおかで重利の山を公開。夏に親と子の木工教室、秋に森のコンサートを開催します。

間伐により山に光が差し込むようになり植生が変わり、タラの木、カラスザンショウ、アカメガシワが生え、春にはワラビが出るようになってきました。野鳥の種類と数も増え、季節を問わず鳥のさえずりが聞こえます。今後は空き地にサクラ、カエデを植え、「重利の山全体の公園化」計画で、美しい里山にしていく予定です。

重利の山を守る会

2015年9月設立／メンバー数：56人／代表者：長瀬 清澄（ながせ・きよすみ）
●〒621-0021　京都府亀岡市曽我部町重利山ノ下21-8
☎0771-23-6807　kiyosumi@zeus.eonet.ne.jp
syk-kameoka.com

私たちは住宅近辺の山の安全と自然を守るためスギの間伐を実施し、伐採したスギの有効利用のため小屋を建て、薪でピザを焼き、会員の親睦を深めています。山の施設を地域のコミュニティの場として利用してもらいます。